

# 花巻市 博物館だより

HANAMAKI  
CITY MUSEUM



No. 78

2026.4



花巻市博物館IP



Facebook



Instagram

## 目次

- ▶ P 1 テーマ展「-博物館資料でめぐる-植物デザイン展」 ▶ P 2~3 「令和8年度展示案内・ワークショップ」
- ▶ P 4~5 テーマ展「-博物館資料でめぐる-植物デザイン展」 ▶ P 6 研究ノート「花巻と馬」
- ▶ P 7 館長コラム・インフォメーション ▶ P 8 花博コレクション



川口月嶺「花籠図屏風」／江戸時代末期 紙本着色、金砂子散し／落款「川有度」 印章「真象」

盛岡藩のお抱え絵師として活躍した川口月嶺による二曲一隻の屏風です。花籠いっぱいに入れられた色とりどりの花々が空間を華やかに演出してくれる作品です。

花巻市博物館では、令和8年4月24日(金)から6月14日(日)まで「-博物館資料でめぐる-植物デザイン展」を開催します。博物館資料を通して、華やかな植物たちの彩りを楽しんでいただければ幸いです。

令和8年度

# 展示案内

## ●テーマ展「-博物館資料でめぐる- 植物デザイン展」

期間：4月24日(金)～6月14日(日)

博物館の所蔵品の中から、植物モチーフの意匠とそこに込められた願いに焦点を当てて紹介します。



藤島静村「菊図屏風」

★関連事業：ワークショップ、ギャラリートーク

## ●テーマ展「つくり、つたえる 花巻の工芸」

期間：7月4日(土)～8月30日(日)

花巻の風土の中で育まれてきた鍛冶町焼や台焼、成島和紙、花巻人形、ホームспанなど職人の手によってつくられてきた工芸品を紹介します。



台焼「糠青磁釉玉露煎茶器」

★関連事業：ワークショップ、ギャラリートーク

## ●特別展「大正イマジジュリィの世界」

期間：9月12日(土)～11月23日(月祝)

大正から昭和初期にかけて、印刷技術の飛躍的発展とともに、芸術は複製芸術という形で大衆の手に渡りました。

大正時代を中心に明治末から昭和初期までのブックデザインなどを紹介します。



竹久夢二「涼しき装ひ」(『三越』15巻第6号)

★関連事業：記念講演会、ワークショップ

## ●テーマ展「花巻人形」

期間：令和9年1月30日(土)～4月11日(日)

博物館が誇る花巻人形の収蔵品の中から内裏雛をはじめ信仰・縁起物、歴史上の人物、風俗、動物といった、さまざまな種類の人形を紹介します。

★関連事業：  
ギャラリートーク



花巻人形「犬抱き」

## ●石鳥谷歴史民俗資料館収蔵庫定期公開

期間：6月2日(火)～6月30日(火)

10月1日(木)～10月31日(土)

公開期間中の休館日：月曜日(祝日・振替の場合、翌日)

現在休館中の石鳥谷歴史民俗資料館収蔵庫に所蔵している国指定重要有形民俗文化財「南部杜氏の酒造用具」を期間限定で無料公開します。

※展覧会の詳細はHPでもお知らせいたします。

# 令和8年度 講座・ワークショップメニュー

博物館では、花巻の歴史や文化をより詳しく、そして楽しく学んでもらうために、講座やワークショップを行っています。令和8年度も様々なメニューを用意しましたので、ぜひご参加ください。

## 《講座》

### ◎館長講座

- 第1回 6月14日(日)
- 第2回 10月15日(木)
- 第3回 2月14日(日)

### ◎学芸員講座

- 第1回 5月31日(日)
- 第2回 8月23日(日)
- 第3回 3月7日(日)

### ◎古文書講座

- 第1回 7月4日(土)
- 第2回 10月18日(日)
- 第3回 1月17日(日)

講師：兼平賢治氏（東北学院大学教授）

★各講座聴講無料、要申込。

★古文書講座は第1回のお申込みで、全3回分のお申込みとなります。★詳しい内容はHP、SNS等でお知らせします。

## 《ワークショップ》

### ◆<sup>まがたま</sup>勾玉づくり

日にち：5月3日(日祝)  
材料費：340円  
定員：20名 要申込



### ◆ブックカバーづくり

日にち：9月19日(土)  
材料費：500円  
定員：15名 要申込

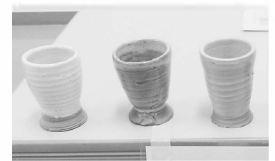
### ◆<sup>こはくだま</sup>琥珀玉づくり

日にち：5月4日(月祝)  
材料費：2,200円  
定員：20名 要申込



### ◆鍛冶丁焼づくり

日にち：10月25日(日)  
材料費：1,500円  
定員：15名 要申込



### ◆縄文弓矢・火起こし体験

日にち：5月5日(火祝)  
材料費：無料  
定員：20名 要申込

### ◆成島和紙飾り紙箱づくり

日にち：11月7日(土)  
材料費：1,000円  
定員：20名 要申込



※5月3、4、5日のワークショップは  
4月10日から受付をします。

### ◆台焼絵付け体験

日にち：6月13日(土)  
材料費：1,500円  
定員：20名 要申込



### ◆花巻人形絵付け体験

日にち：7月26日(日)  
3月14日(日)  
材料費：2,000円程度～  
※選ぶ人形によって、  
値段が変わります。  
定員：20名 要申込



### ◆壁かけ傘づくり

日にち：7月19日(日)  
材料費：3,000円  
(台紙希望の場合+500円)  
定員：20名 要申込



### ◆成島和紙うちわづくり

日にち：8月8日(土)  
材料費：1,000円  
定員：20名 要申込



※講座・ワークショップの場所は博物館 講座・体験学習室、時間は13時30分～15時までを予定しています。

※お申込みは開催日の1ヶ月前から、オンライン、お電話にて受付します。

※講座・ワークショップともに内容に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。

令和8年度花巻市博物館テーマ展

# －博物館資料でめぐる－ 植物デザイン展

令和8年4月24日(金)～6月14日(日)

長い冬が明け、この花巻の地にもようやく春がやってきました。春の訪れとともに、植物たちも芽吹き始める季節です。

桜、向日葵、紅葉…と、日本人は季節の移り変わりを、身の回りの植物を通して感じていました。それらは、美術品や日用品などにもデザインされ、日々の生活を彩るものとなっています。

本展では、花巻市博物館で所蔵している資料の中から、植物がデザインされた美術品や様々な道具などを通して、それぞれのデザインに込められた人々の願いに焦点をあてます。

本図は、水沢（現奥州市水沢）出身で明治時代から昭和期にかけて活動した日本画家、佐藤耕方こうほうの作品です。

ほのかに色づいた桜には吊り燈籠が掛けられ、その明かりの向こうでは、読書に耽る女性の姿が描かれています。春の夜の温かさが伝わる作品です。



## 桜 さくら

日本には古くから野生種の桜が存在し、春になると一斉に花を咲かせ、春の訪れを知らせるとともに、人々の目を楽しませてきました。平安時代には、ヤマザクラを用いた桜の栽培化も行われるようになったとされています。

日本人に古くから愛されてきた桜。桜の花見は、かつては五穀豊穡を願う行事であったことから、桜は豊かさや繁栄を意味してきました。また、春の象徴で新たな季節の訪れを知らせることから縁起の良い物事の始まりともされています。



佐藤耕方「桜下美人図」



## 竹 たけ

竹は天に向かってまっすぐ伸び、冬も枯れないことから、古来より吉祥の植物とされてきました。また、芽を増やしてすくすくと育つことから繁栄の象徴ともされています。同じく縁起物として松や梅と合わせて使用されることも多い文様です。



花巻焼「染付竹文手焙」

本資料は、花巻焼てあぶりの手焙です。花巻焼は、湯本の万寿山まんじゅやまや湯口の円万寺の良質な陶土を原料にして下根子村荻堀しもねこむらおぎほり（現花巻市桜町）に開窯された陶磁器窯とうじきようです。

手焙とは手先を温めるために用いた小型の火鉢のこと。小型のため容器と炭火が近くなることから、本体には耐火性のある陶器や金属が用いられることが多いです。

本資料で描かれる竹は、太い幹を天までぐんぐんと伸ばしている力強い姿が印象的です。



## 菊 きく

菊は奈良時代に薬草として中国から伝わったものとされています。平安時代には、九月九日の重陽の節句に長寿を願う菊酒の宴があったとされています。この頃より長寿の漢方薬として使われてきたこともあり、不老不死や無病息災の意味があったようです。



藤島静村「菊図屏風」

花巻ゆかりの画家、藤島静村ふじしませいそんが手がけた「菊図屏風」です。屏風の中央には小川を、その周りに色とりどりの菊を配置し、華やかでバランスの取れた構成の絵となっています。

盛岡で生まれた静村は、川口月村かわぐちげつそんに絵を学びました。昭和の初め頃から花巻に度々来遊し、昭和8（1933）年に花巻町役場で個展を開いています。



## 牡丹 ほたん

牡丹は中国北西部を原産とする落葉低木です。中国においては、古くから薬用植物としての価値が高く評価されており、特にその根の皮は、漢方薬として様々な病の治療に用いられました。

日本へも薬用植物として渡来しましたが、平安時代以降には観賞用として人々に愛されるようになったようです。

花が大きく、美しい姿から「花の王様」「百花の王」とも呼ばれる牡丹。硬く小さいつぼみが、いつしか膨らみ大きな花を咲かせる様子から富貴、高貴、幸福を象徴する花とされています。また、女性の美しさや優雅さの象徴としても広く認識されています。「立てば芍薬しやくやく、座れば牡丹、歩く姿

は百合の花」のことわざは、座っている女性の落ち着いた華やかな美しさを堂々と咲く牡丹の花にたとえています。

本資料は、「宝亀ささえ」と名付けられた花巻人形です。稚児が担ぎ上げる亀からは、長い尾のようなものが生えています。これは「蓑亀みのがめ」と呼ばれる、甲羅に生えた苔が尾のように長くなるほど長生きした亀を表しています。



花巻人形「宝亀ささえ」

この部分に大胆に描かれているのが牡丹の花。花巻人形では桜や梅などとともによく見られる模様です。牡丹の「丹」の字が不老不死の薬を意味することから、長寿や不老不死の願いが結びつけられることもあり、この蓑亀と合わさって、長寿を願う花巻人形だと思われます。

美しく彩られた植物デザインの品々を、その意味と合わせてお楽しみいただければ幸いです。

（学芸員 松橋香澄）

### ◆関連イベント

#### ◆ワークショップ「台焼絵付」

講師：杉村峰秀氏（台焼窯元）

日時：令和8年6月13日(土)

13時30分～15時

場所：花巻市博物館 講座体験学習室

定員：20名（要予約、入館料不要）

申込開始：令和8年5月13日(水)～

※お申込みはオンラインまたはお電話  
(0198-32-1030)にてお申込みください



台焼絵付

#### ◆ギャラリートーク

日時：令和8年4月26日(日)・6月6日(土)

各13時30分～14時30分

場所：花巻市博物館 企画展示室

（申込不要、要入館料）

## 研究ノート

## 花巻と馬 — 花巻馬検場主・中村巳吉に着目して —

博物館には様々な問い合わせが寄せられます。その一つに、明治39（1906）年から10年がかりで岩手山頂お鉢廻りに三十三観音の石像を1体ずつ背負って奉納し、昭和2（1927）年には国道282号滝沢分<sup>わか</sup>レ交差点に大鳥居を建立した「中村巳吉」<sup>なかむらみきち</sup>とはどのような人物か、というものがありました。

まずはじめに『岩手県姓氏歴史人物大辞典』（角川書店1998）を開いてみると、「生没年は明治2（1869）年から昭和22（1947）年。岩手郡盛岡馬町（現盛岡市清水町）に家畜商の次男として生まれ、花巻町（現花巻市四日町）で馬の競り市と家畜商を営み、軍馬育成で高い評価を受け、商売は繁盛したのち廃業。戦後は盛岡に移転した。」とありました。さらに巳吉に関する情報を集めようと、岩手日報の記事を調べてみると、複数の関連記事を見つけることができました。

大正13（1924）年12月4日（木）付け岩手日報の第4回<sup>ほひつ</sup>馬匹共進会の特集記事で巳吉は、花巻馬検場主・稗貫郡馬商組合長と紹介され、「共進会開催の目的は軍馬の馬格改良向上を目的とするほかに、稗貫郡は馬産地の内外川目<sup>うちそとかわめ</sup>両村（現花巻市大迫町）を除き、農馬と軍馬の育成地であることから、優良な軍馬を移し入れるために馬商を刺激して健全な馬の売買を推進することである。」というような内容のコメントが掲載されています。

当時の政府は、日清戦争以降、大型の軍馬を確保するため、明治39（1906）年に軍馬育成に関する行政機関として馬政局<sup>ばせいききょく</sup>を設置し、馬匹改良と増殖の促進を図り、その育成を奨励していました。大正期の花巻でも軍馬の育成に力が注がれていたようで、軍馬を出品した共進会が盛大に開催されていました。その始まりは、大正10（1921）年の稗貫郡物産共進会の一環で稗貫郡馬商組合が主催し、花巻馬検場（現花巻市四日町、花北振興センター）で開催された馬匹共進会でした。軍馬の共



第三回稗貫郡驛（せり）馬共進会記念繪葉書 馬匹集合（部分）  
〔大正12（1923）年11月〕



第三回稗貫郡驛馬共進会記念繪葉書 会場全景（部分）  
〔大正12（1923）年11月〕

進会は他県に先んじて開催されたもので、大きな注目を集めたようです。会場となった花巻馬検場は、明治43（1910）年の家畜市場法によって創立され、牛馬の競りや軍馬の選別・補充が行われる場所でした。当初は花巻町営でしたが、経営不振に陥り、巳吉が大正10（1921）年頃には買い取って経営を維持させていました。稗貫郡物産共進会を4日間にわたって特集した大正10年11月13日～16日付け岩手日報では、巳吉が馬匹共進会の開催に尽力したことが繰り返し記されています。一連の新聞記事から巳吉は、花巻の家畜、そして軍馬育成と流通において重要な役割を担う人物であったことが分かってきました。

そして、花巻の軍馬育成地としての発展を後押しするように、大正14（1925）年、花巻の馬事関係者が組織した南部競馬クラブ<sup>はなまき</sup>によって花牧競馬場<sup>けいばじょう</sup>が設立されました。競馬は、馬匹改良を促進したい軍部の支援もあって、大正12（1923）年に



花牧競馬場で出走の  
合図に使用された半鐘（はんしょう）  
〔田口鑄鉄工場製〕

旧競馬法が制定されると、政府の許可を受けた団体は馬券販売が可能になり合法化されていました。花牧競馬場は、現在の花巻市諏訪・大谷地・南諏訪町にまたがる広大な地域に造られ、日中戦争により廃止される昭和12（1937）年まで大いに賑わったといえます。

中村巳吉という人物を通して、大正期の花巻における馬産の歴史の一端が見えてきました。今後も継続的に調べていきたいと思えます。

（学芸員 高橋静歩）

## 館長 コラム

### 縄文人とクマ

令和7年を象徴する漢字一文字は「熊」。これほど人的な被害が話題となった年もなかったが、マスコミには数多くの専門家が登場し、クマとの共生などについて様々な意見を述べていた。

日本列島最初の狩猟民であった縄文人が生活していた時代、クマは単なる獲物としての「動物」ではなく、彼らの精神世界や生活文化にも深く関わっていた。その痕跡は、花巻市内の遺跡でもみることができる。石鳥谷町の野原Ⅲ遺跡から出土した縄文時代晩期末葉から弥生時代前半頃のクマ形の土製品は、尻の部分が平らになっていて、クマの口があいていることから、座った状態を造形した「クマ形土器」と考えられている。首の部分には、「月輪」と思われるU字の文様が描かれていて、明らかにツキノワグマを表している。この土器に何を入れたかはわからないが、クマに関係する儀式の時に用いられたものであろう。同形態のクマ形土器は、二戸市上杉沢遺跡でも出土しており、こ

の土器を用いた儀式が広範囲で行われていたことを窺わせる。

大迫町アバクチ洞穴遺跡からは、縄文時代後期の集石遺構の周辺から多数のクマの骨が発見された。とくに、36点も出土した犬歯が目立っており、特異な出土状況であった。貝塚などから発見される犬歯の多くは穴があけられていて、装飾品として利用されているが、アバクチ洞穴から出土した犬歯には加工された形跡が全くなかった。しかも、集石遺構の周辺からは、イボニシヤクキガイなど、内陸部では生息していない海産小型巻貝がまとまって発見されている。これらのことから、この洞穴ではクマに関する何らかの儀礼が行われていたと考えられるのである。アイヌ文化では、クマは「神の使者」として扱われ、盛大なクマ送りの儀式を行っているが、縄文時代にもそれに近いことが行われていたことが推測された。

縄文人はクマだけではなく、他の動物や植物などの生態にも精通しており、それぞれに深い精神的なつながりをもっていただと思われる。それは「自然の一部として生きる」という縄文人の知恵なのであろうが、是非その術を知りたいものだと思う。

## 令和8年4月～7月の行事予定

### 【企画展示室】

- テーマ展「次世代へつなぐ花巻市の歴史  
－花巻市史編さんの取り組み－」  
会期：開催中～4月12日(日)
- テーマ展「-博物館資料でめぐる-植物デザイン展」  
会期：4月24日(金)～6月14日(日)

### 【ワークショップ】

詳細はP3をご覧ください。  
ワークショップのオンライン申込みはこちら▼



勾玉づくり



琥珀玉づくり



縄文弓矢・火起こし体験

※4月10日(金)より申込受付を開始します。

### 【講座】

- ◆館長講座 第1回「一國指定50周年－  
早池峰神楽の歴史と継承」  
日時：6月14日(日) 13:30～15:00  
定員：30名 ※要申込  
費用：無料  
※5月14日(木)より受講受付を開始します。



館長講座-1

### ◆学芸員講座

- 第1回「多田等観の花巻における足跡  
－日記、『観音堂記録』、書簡から－」  
日時：5月31日(日) 13:30～15:00  
定員：20名 ※要申込  
費用：無料  
※4月30日(木)より受講受付を開始します。



学芸員講座-1

### ◆古文書講座 第1回

- 講師：兼平賢治氏（東北学院大学教授）  
日時：7月4日(土) 13:30～15:00  
定員：20名 ※要申込  
費用：無料  
※6月4日(木)より受講受付を開始します。



古文書講座-1

※ワークショップ、講座ともに参加申込みは、申込み開始日から開催日の前日までにオンラインまたはお電話にてお申込みください。なお、受付は定員に達し次第終了いたします。

※各ワークショップ、各講座の会場はいずれも花巻市博物館講座・体験学習室です。

## 花巻市博物館

令和8年4月から  
開館時間と休館日が  
変わりました！

〒025-0014 岩手県花巻市高松第26地割8番地1  
電話：0198-32-1030 FAX：0198-32-1050  
開館時間：午前9時から午後4時30分まで  
休館日：月曜日(祝日・振替休日の場合その翌日)  
12月28日から1月3日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

※( )内は20名以上の団体割引料金です。  
※割安な近隣4館共通券もあります。  
※特別展示を行う場合、別に入館料を定める場合があります。

### 交通案内

- ◆バス  
新花巻駅→賢治記念館口  
<コミュニティバス 土沢線>  
シーナシーナ花巻前行…約5分  
花巻駅→賢治記念館口  
<コミュニティバス 土沢線>  
道の駅とうわ行…約20分
- ◆車  
花巻空港ICより…約10分
- ◆徒歩  
新花巻駅より…約25分



URL: <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1019887/1008981/index.html>

HANAHAKU

# 花博コレクション

COLLECTION



↑「花巻温泉ニュース」第60号(昭和9年9月15日) 閑院宮春仁王来泉の記事



↑「花巻温泉ニュース」第42号(昭和8年3月15日) 芸者紹介コーナー



↑「花巻温泉ニュース」第24号(昭和6年6月15日) 与謝野夫妻来訪の記事

## 「花巻温泉ニュース」 昭和4 (1929) 年7月～昭和14 (1939) 年

花巻温泉の起りとは、大正7 (1918) 年、岩手輕便鉄道の三鬼鑑太郎や花巻電気の菊池忠太郎、花巻町の豪商・伊藤儀兵衛の二男の篤次郎らが湯本村の有志と計画した「台遊園地新温泉計画」に端を發します。この計画は途中から盛岡電気工業の金田一国土へと引き継がれ、大正12 (1923) 年8月の旅館「花盛館」の開業によってその歴史が華々しくスタートしました。宿泊施設だけでなく公会堂、運動場、テニスコート、ゴルフ場、スキー場、動物園、遊技場など様々な娯楽施設を合わせ持つ総合レジャーランドとして発展し、昭和2 (1927) 年には株式会社花巻温泉が設立され、来年創業100年を迎えます。

「花巻温泉ニュース」は、花巻温泉で昭和4 (1929) 年7月に創刊され、毎月1回 (15日) 発行された刊行物です。一般的な新聞と同じように第三種郵便物許可を受けて全国の温泉や顧客、旅行代理店や関係者などに配られました。編集や記者は温泉職員が担当しており、温泉の旅館や各施設の紹介、温泉で開催されたスポーツ大会等イベントの様子、宿泊した著名人に関する情報、周辺スケッチ、短歌・俳句等の文芸、芸者衆の紹介など豊富な内容で紙面を賑わせました。昭和12 (1937) 年頃からは時勢に合わせて、傷痍軍人療養や武運長久祈願詣、陣中たよりといった内容の記事も目立つようになり、戦時体制下における物資不足によってページ数が削減されることもありましたが、昭和14年代まで刊行され続けました。

(学芸員 小田島智恵)